JAとりで通信 NO.396
2023.10.30

連載
連携医のご紹介

連載
高齢者に多い
眼の病気

特集　小児科

特集

小児科

小児科は、子どもの内科です。実は小児科医にも大人でいう循環器・神経などの様々な専門性があります。子ども病院のように大きな病院であれば、各専門分野の小児科医がそろっていますが、一般的な病院ではそうはいきませんので、全ての分野の初期診療を行い、必要に応じて専門分野の小児科医がいる病院に紹介します。子どもは自分の症状を上手に訴えられないことが多く、おもいがけず重症化していることがあります。当科の役割は、子どもの状態を把握し、自分達で対応可能であれば対応し、難しければ適切な病院へ紹介/搬送して、「救命の連鎖」をつないでいくことだと考えています。

家の中は子どもにとって危険がいっぱい

さて、「救命の連鎖」と書きましたが、これは、病人やけが人の命を救い、社会復帰できるまでに必要な一連の行いを指します（図１）。①心停止の予防②心停止の早期認識と通報③一次救命処置（目撃者による心肺蘇生）④二次救命処置（医療従事者による心肺蘇生及びそれに続く治療）からなる4つの輪が、すばやく途切れることなくつながることで救命率が高まります。このうち①～③は、医療と関わりのない一般の方々が担う部分であり、特に「心停止の予防」からその輪が始まるのはとても大事な点だと思います。大人にとって、突然心停止に至る病気には心筋梗塞や脳卒中があげられますが、子どもではどうでしょう？　子どもは急な心停止を起こすことは少ないですが、起こりえます。例えば「事故」です。

厚労省による年齢階級別の死因をみると、「不慮の事故」は子どもにおいて常に上位にあります。そして、年齢が小さいほど、事故の大半が家庭内で起こります。「転ぶ」「落ちる」「おぼれる」「喉をつまらせる」「やけど」など、家の中は子どもにとって危険がいっぱいです。ただ、これらの事故はある程度パターンが決まっています。ではなぜ大事に至るような事故を防ぐことができないのでしょうか？「何が危険か覚えるために、痛い思いも必要だよ」と保護者が考えているからでしょうか？「保護者が気をつけてない」からでしょうか？　痛い思いといっても後遺症や死に至るような事故は適切ではないですし、『気をつける』ことが効果的な対応ではないことは、子どもの事故予防に関わる人たちの間では当たり前になっています。伝えたいことは、できることが増えていく子どもの発達段階によって、起きやすい事故があることを知り（図２）、事故が起きても大事に至りにくくするための具体的な工夫（図３）を各ご家庭でしていただきたいという事です。子ども家庭庁やSafe Kids Japanなどのwebサイトも参考にして下さい。

図１

救命の連鎖

図３

やけど

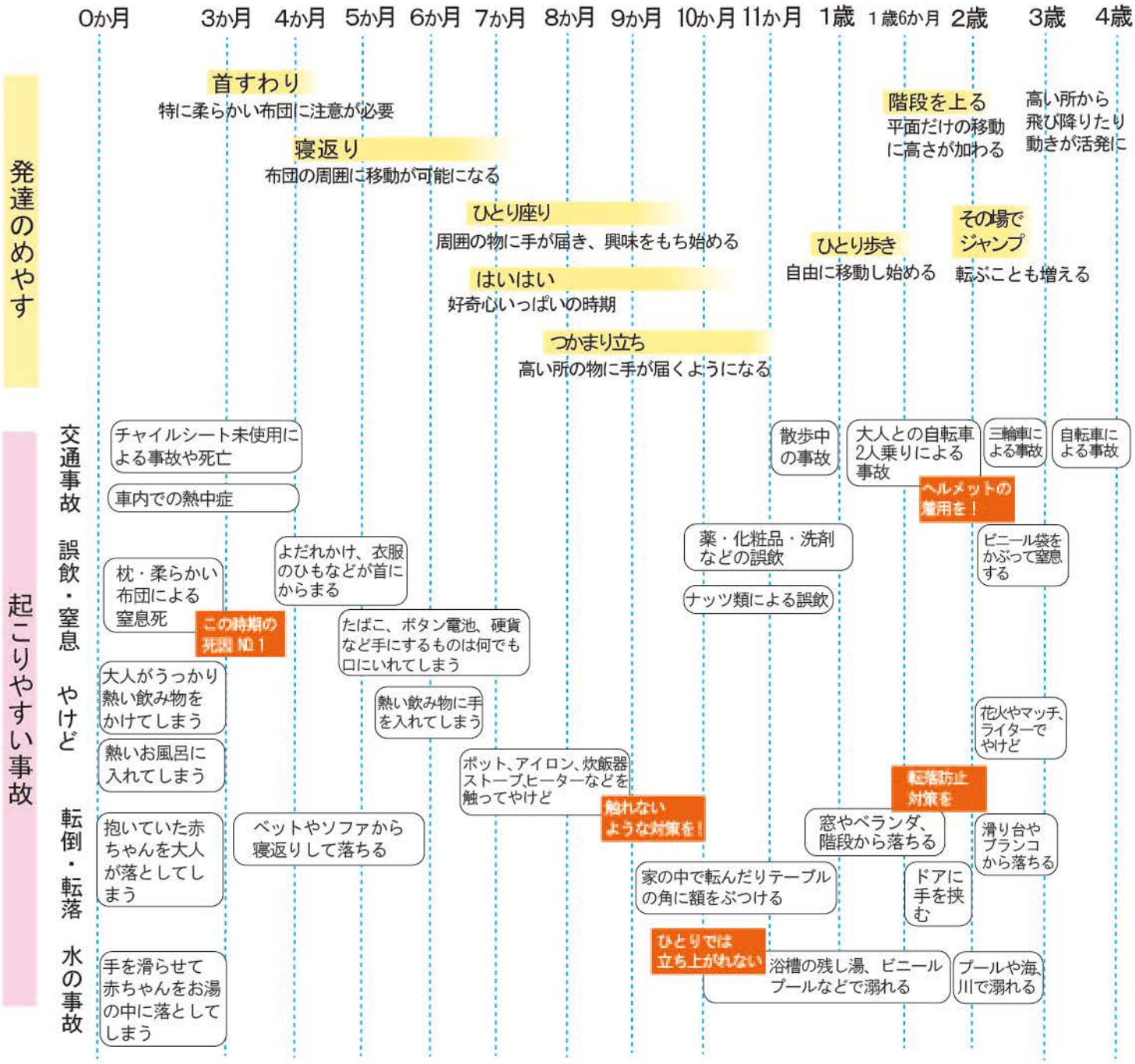
熱い汁物をかぶり、やけどをします。テーブルクロスを使わないようにしましょう。

窒息

添い寝中に圧迫してしまい、窒息します。ベビーベッドで寝かせましょう。

絵は消費者庁ホームページより引用

図２　岸部峻 コロナ禍で増えた家庭内事故 チャイルドヘルス 2023：26；246 - 250（一部改変）



成人用の薬の誤飲で死に至る可能性も

この広報誌を手に取った多くの方が、今日薬を処方されたと思います。図にはありませんが、薬の誤飲事故について最後にお話しします。“成人用のわずか1錠の誤飲であっても子どもを死に至らしめる可能性がある薬”があり、海外では“One pill can kill a child”という言葉で知られています。医療用麻薬や一部の降圧薬・血糖降下薬・抗うつ薬などがこれに当たります。幸い？日本の薬は1錠に含まれる成分量が海外に比べて少ないものが多く、1錠だけでは死に至る可能性は低いかもしれませんが、危険をはらむことに違いはありません。薬をジップロックで保管しない（食べ物と間違える）、簡単にはロックが解除できない物に保管する、服用直前まで薬を出さない（ちょっと机に置いた隙に誤飲する）、内服している姿を見せない（真似をする）などの工夫をしてみて下さい。お孫さんの家に行く（カバンから取り出して誤飲する）/お孫さんがやってくるなどの環境の変化もリスクが高い時ですので、しっかり確認して下さい。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

連載

高齢者に多い眼の病気（2）

～緑内障～

眼科 科長 飯塚 美穂子

眼は高齢になると病気になる可能性が増えてきます。眼はさまざまな原因でみえなくなることがあります。視覚障害の原因は緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症が多くを占めています。今回は緑内障についてです。

● 緑内障は視野が狭くなる病気

緑内障は視神経が障害され視野（見える範囲）が狭くなる病気です。眼圧上昇が主な原因です。多くの人は長い時間をかけて徐々に視野が狭くなります。欠けた視野は元に戻すことはできません。

● 緑内障は3種類

眼の炎症、薬の内服などが原因で二次的に眼圧が上昇する続発緑内障と眼圧上昇の原因が他にみあたらない原発緑内障、生下時よりある先天緑内障の3つにわかれます。先天緑内障は非常にまれな疾患です。多くは原発緑内障です。

● 緑内障は非常に多い疾患

小児期は非常にまれですが、40歳以上になると多い病気で40歳以上の日本人の5％は緑内障になっていると言われています。日本人は緑内障のなかでも眼圧が正常である正常眼圧緑内障が多く緑内障全体の約7割を占めます。

● 緑内障では眼圧が上昇

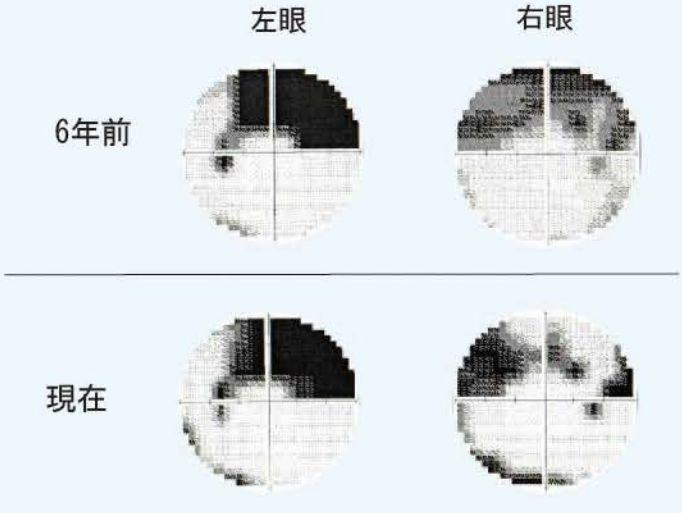
眼は房水という前房にある液体で眼に栄養を運んでいます。眼圧は房水の作られる量と房水が目の外に出ていく量のバランスによって維持されています。正常範囲は10～21㎜Hgで、健康な目の平均は14㎜Hgです。緑内障の人は房水の出口である隅角がめづまりして眼圧が上昇しています。

● 治療方法

治療法は眼圧を下げることです。正常眼圧緑内障であっても眼圧を下げると視野がかけるのを遅らせることがわかっているためです。第一選択は点眼薬です。緑内障は治る病気ではないので一生付き合っていく必要があります。視野欠損が進行し点眼薬で十分に眼圧を下げることが出来ない場合には眼圧を下げる手術になる場合もあります。

● 緑内障の方がこころがけたいこと

毎日忘れずに点眼薬を使用し、定期的に受診して眼圧、視野など確認することが大切です。まずは患者自身が自身の緑内障の状態を知ることも大切だと思います。欠けた視野の部分は雲がかかっているように感じるのであって、黒く見えるわけではないことを知っておくことも大切です。また緑内障初期は、両目で見ると視野欠損を自覚できないことが多いです。高齢になると点眼薬の使用を忘れてしまったり、体が不自由になって思うようにできなくなる方もいると思います。患者さんのご家族の協力が必要な場合もありますので、患者さん本人だけでなく、ご家族も緑内障について理解していただくようよろしくお願いいたします。



6年前から点眼治療中で、視野狭窄（上図）が悪化していないため治療を継続しています。

連携医のご紹介

医療法人社団健守会　わくいクリニック

院　長　和久井 守

診療科目　泌尿器科・脳神経外科

担当医師　和久井 守　（泌尿器、院長）
和久井 大輔（脳神経外科、火曜日のみ）

診療時間

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～11:30	○	○	／	○	○	○
午後13:00～16:30	○	○	／	○	○	／

休診日　日曜日・祝日・水曜日

連絡先　TEL 04-7185-0911　FAX 04-7185-0912
〒270-1176 千葉県我孫子市柴崎台2-8-19

アクセス　JR天王台駅　北口徒歩6分

ドッグや健診で感染尿、細菌尿を指摘されて受診される方がいます。多くがフローサイトメトリー法による自動分析で誤って判定されています。当院では尿遠沈沈査を目視鏡検で判定しています。この昔ながらのやり方は手間も経費も時間もかかりますが尿中白血球、細菌を正確に判定できます。密かに当院の自負している点です。

JAとりでさんには泌尿器科はもとよりクレアチニン高値では腎内科、停留睾丸、睾丸回転症、陰のう水腫、精索静脈瘤、包茎など小児泌尿器科では小児外科の先生にお世話になっています。

当院の脳外科は現在週1回の小さな存在ですが、いずれ大きくなっていきます。よろしくお願いいたします。

（院長：和久井　守）

新人のご紹介

5階南病棟

左から平岡恵美、鹿島寛映、湯山遙香

５南病棟は、整形外科・耳鼻科・口腔外科の病棟です。
今年度、新たに仲間になった看護師３名を紹介します。
優しい言葉遣いで患者さんと接し、良好な人間関係を築ける湯山さん。
丁寧な対応、優しい笑顔が魅力的な平岡さん。
周囲の状況を見ながら仕事に取り組み、頑張り屋の鹿島さん。
３人とも、疑問点や学んだことはメモをとり、先輩に相談したり、ときには同期同士で情報を共有し合ったりと、確実に成長している姿を見て嬉しく思っています。
引き続き、共に成長できるようサポートしていきたいと思います。

５南病棟先輩看護師

2022年度
患者さんへのアンケート結果をご報告します

当院では毎年、患者さんにアンケート調査を行っております。調査項目は、大きく5項目、細部では23項目に分けています。

調査期間　2022年11月1日～11月30日
調査対象　外来：237人　入院：200人
回収率　外来：76%　入院：69%

満足　やや満足　どちらとも言えない　やや不満　不満　未記入

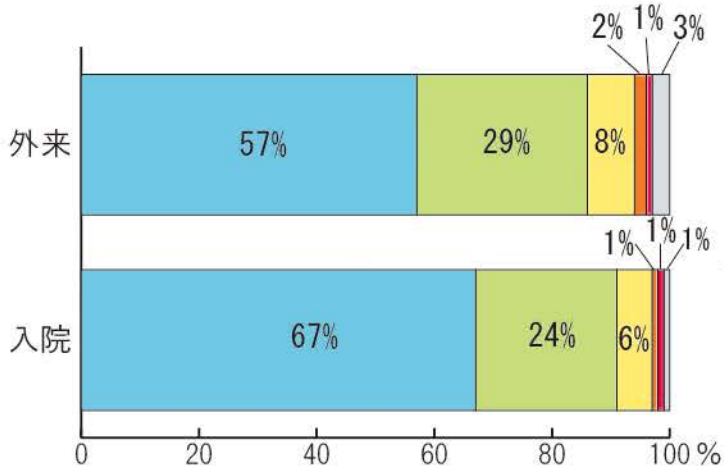
職員の接遇

外来

満足・やや満足が86%でした。コロナ禍で細やかな対応ができなかったかと思いますが、前回と同様によく評価して頂きました。各職員、今後もより良い接遇を心がけてまいります。

入院

満足・やや満足が91%と今回も高い評価をして頂きました。各部署についても偏りなく評価が高かったようです。接遇研修、勉強会等は今後も定期的に行ってまいります。



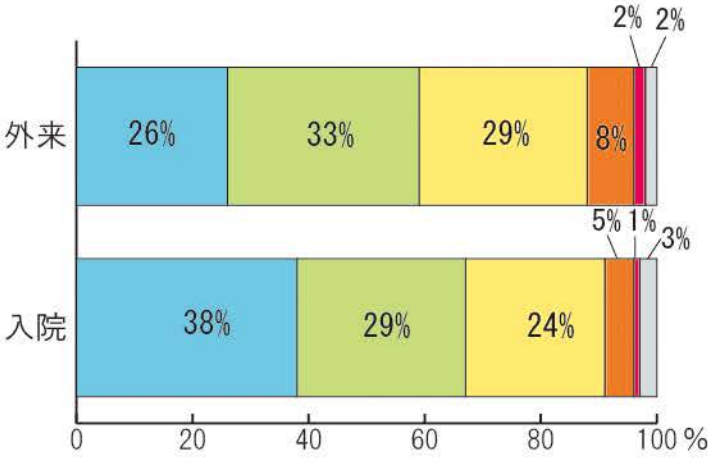
施設・機能

外来

満足・やや満足が59%でした。例年、厳しい評価を頂いております。ご不自由をおかけしていますが、今後もお気づきのところがありましたらご意見をください。ご意見の内容を吟味して改善を図っていきます。

入院

満足・やや満足が67%でした。今回もそれほど悪い評価ではありませんが、前回より低下しました。設備の維持や安全管理には十分配慮していますが、お気づきの点がありましたら、これからもご意見をください。



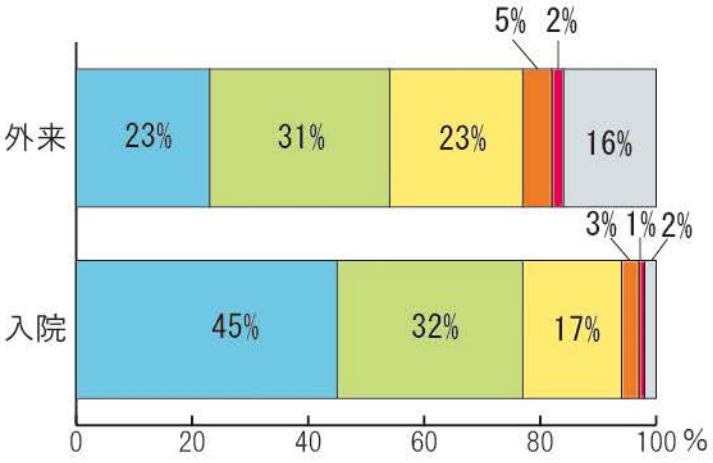
時間管理

外来

満足・やや満足が54%でした。こちらも前回より下がりました。あいかわらず、診察や薬の待ち時間についてのご不満が多いようです。一部は感染対策上、お手数をかけているところもあり、ご迷惑をおかけしてすみません。待ち時間対策については、引き続き検討してまいります。

入院

満足・やや満足が77%でした。今回もまずまずよい評価を頂きました。上記項目にも関連したところですが、売店の休日の営業再開については、今しばらく猶予をください。コロナ禍からの正常化については当院も慎重に検討しているところです。



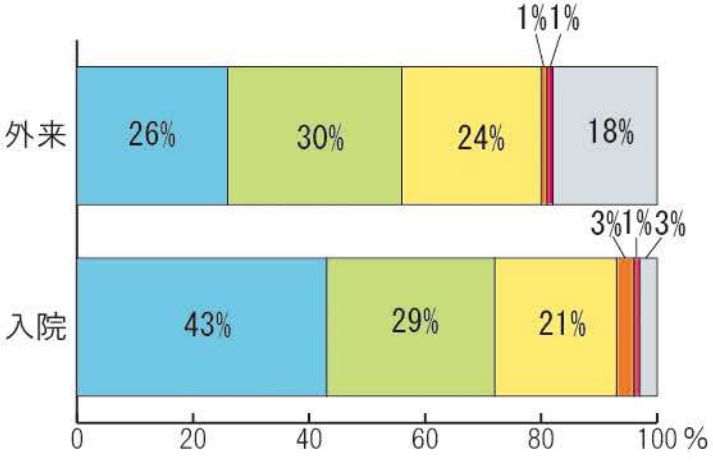
情報提供

外来

満足・やや満足は56%と、前回とほぼ同様の評価をいただきました。今後もわかりやすい情報提供を行うよう気をつけていきます。

入院

満足・やや満足は72%とやや良い評価でした。最近は災害時・緊急時の避難等の案内に関する点で心配されている方が多いという傾向がみられています。当院も災害拠点病院として、避難訓練等の災害時の訓練は定期的に行っております。避難等の案内については、必要に応じて見直してまいります。



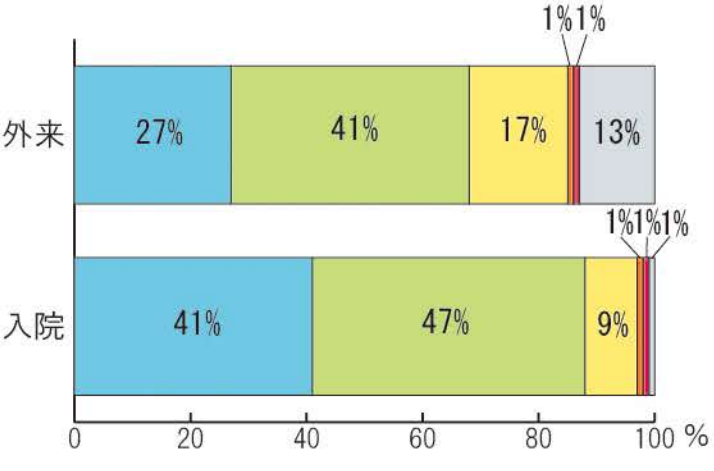
全体の印象

外来

満足・やや満足は68%でした。前回よりはかなり低下しました。コロナ禍の影響もだいぶあるのかと考えております。日常の行動制限が徐々に緩やかになってきてはいますが、安心できる医療サービスを提供し続けるために、病院としてはまだ慎重にならざるを得ません。いろいろとご不満のあることは理解しておりますので、これからも忌憚なくご意見をください。

入院

満足・やや満足が88%でした。今回も高い評価をありがとうございました。日常生活はコロナによる制限からの回復を目指し始めています。おそらくは入院での面会制限なども今後見直していくことになるかと思います。ご不自由を今しばらくおかけしますが、ご容赦ください。



お知らせ

予約センター受付時間変更のお知らせ

予約センターの平日の受付時間を10月2日より下記の時間に変更させて頂きました。
ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力の程宜しくお願いいたします。

平日	土曜日（第1・3）
午前８時30分～11時30分	午前８時30分～午後12時30分
午後１時30分～５時	

予約センター　☎　０２９７－７２－００１５（直通）

第1回 JAとりで健康講話

11月18日(土) 14:00～(入場13:30) 新棟3階講堂

アルツハイマー病新薬により認知症治療はどう変わるか

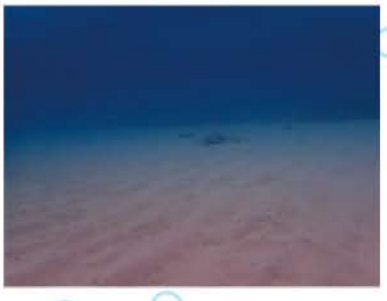
JAとりで総合医療センター
院長兼脳神経内科部長　冨満　弘之

入場無料・予約不要

私の推しごと

HCU　高橋 愛美

私の推し活は、スキューバダイビングです。水中写真にハマっていて、見つけた海洋生物の写真を撮っています。体長1ｃｍに満たない生物が擬態していることもあるので、目を凝らして探しています。カラフルなサンゴや、地形によるその地域特有の景色も美しいので癒されています。



今月の表紙　小児科医師と小児科外来のスタッフです。子ども達の健やかな成長のために、スタッフ一同努めてまいりますので宜しくお願いいたします。

発行所：JAとりで総合医療センター　発行人：冨満 弘之　編集：広報室
〒302-0022　茨城県取手市本郷2-1-1　TEL:0297(74)5551 URL:http://www.toride-medical.or.jp/